



令和元年9月14日～16日

## 「盆と正月に帰らなくても、石岡のおまつりには、帰る」 まつりが育む、まちへの思い、 新しい時代のはじまりに。

# 令

和最初の年番を務めた國分町は、国分寺を中心にできたまち。今でも、お釈迦様の誕生日とされる4月8日は、町内をあげて花まつりを行っています。

「平成最初の年番を務めたのも國分町。町内の山車人形も仁徳天皇。元号が変わる節目に縁を感じる」とまちの人々は話します。

### ■まつりを取り仕切る年番

常陸國總社宮例大祭に参加する36町内のうち、年番制度を担うのは15町内です。明治35年から始まり、今年で117年がたちました。

年番町には、大神輿の巡行路を決め、神輿の担ぎ手を集める神輿部や、神様を迎える御仮殿おかりやを町内に建てる仮殿部、中日に行われる奉納相撲の土俵づくりを行う相撲部など、15年に一度、担う仕事が多くあります。

### ■昨年、結成30年を迎えた石岡青年会

年番を務める町内には、高校生以上で構成された青年会という若者たちの組織があり、各町内の青年会が集まり、石岡青年会が結成されています。「石岡青年会は、平成元年、國分町が年番の年に発足しました。それ以前は、山車の巡行は事前に調整されていませんでしたから、山車同士が鉢合わせしてしまうと、どちらの町内が前に進むかの調整が非常に困難でした。巡行に、今のような規律が生まれたのは、30年にわたり、各町内の若者たちが力を合わせて、まつりを良くしていきたいと頑張ってきた結果です」と話すのは國分町の神輿部長、上田昭次さん（64歳）。石岡青年会の発



1 手話の囃子言葉が特徴の國分町の女子部は年番に合わせて、奉祝祭に總社宮で行われる浦安の舞をモチーフにした新たな囃子言葉を作りました 2 まつりの1週間前、町内の裝飾や会所のテント張りなどの準備を行う住民と青年会の若者たちの姿 3 國分町に参加したフランスの留学生たち 4 國分町の山車は神幸祭で大神輿を見送ると「國分町」の看板を裏返し「敬神」へ 5 クリーンアップ(清掃)ボランティアには3日間で延べ193人の一般市民が参加。市内の3つの高校からも多くの生徒たちが参加してくれました。



■体験したら、それは思い出になる  
國分町の獅子部には、3年前からフランスの留学生が参加しています。今年は慶応義塾大学の理工学研究科の大学院に留学中の3人の学生を受け入れました。「まつりを見るだけでなく、体験したら思い出になります。外から人を受け入れることは、石岡のまつりのこと、まちのことを広めてもらえるきっかけになると思っています」と学生たちの世話人を務めた獅子部副部長の小林雅人さん(56歳)は話します。  
まつりでの新たな出会いが、石岡というまちの可能性を広げてくれる。新しい時代が始まります。

■石岡に残る。その思いを育むもの  
石岡青年会は、奉祝祭、15日の夜に行われる山車大行列の巡行を任されています。先頭を切るのは年番町。國分町の青年会では一年をかけ、4mを超える高さの山車をきれいにしました。やすりで表面の汚れを削り、液剤で汚れを浮かせ、仕上げにワックスを塗る。それも全部手作業で。「地味で途方もない作業の繰り返し。でも山車小屋で作業しながら、無駄話をしたり、休憩をしながら色んな話をしたり。そういう時間を積み重ねて、若い子たちと絆ができる。彼らの笑顔を、まつりの日に見られるのが何より嬉しい」と話すのは青年会長の埴佳晃さん(31歳)。  
ハレの日に向けて準備をする日々の時間が、若者たちの石岡での思い出を作り、そこから新しい時代を担う若者たちが育っていました。

足時、初代会長を務めました。



# 2,000 人の供奉行列

露払いを務めるのは、土橋町と仲之内町の獅子と、富田町のささら



土橋町



富田町



仲之内町

**供** 奉行列とは、大神輿の巡行の後に続く、各町内の関係者や幌獅子の行列のこと。初日、大神輿が常陸國總社宮から出御し、御仮殿に向かうときと、最終日に大神輿が御仮殿から總社宮に還御するときに、石岡のまちなかでは2,000人以上が一斉に動きます。

露払いとは、神霊が遷された大神輿の通り道を清めること。富田町のささら、土橋町と仲之内町の獅子が、大神輿を先導し、この露払いを務めます。

そして、大神輿の後ろには、30台以上の幌獅子が連なります。獅子頭に囃子衆が乗りこむ移動式の小屋がついた幌獅子は、石岡特有の出し物。各町内によって異なる獅子の顔も見どころです。





幌獅子大行列の時には、金棒引きと呼ばれる年番町の女の子がカラフルな袴をまとい御幸通りを歩きます。

# 過去最高の人出 3日間で 50万3,000人

**神** 幸祭に16.2万人、奉祝祭に21.6万人、還幸祭に12.5万人が訪れました。今年は県と連携し、県内在住の外国人留学生や外国人YouTuberのRinrin Dollさんを招いて、おまつりをテーマにしたモニターツアーを実施。

今年も土橋町では、米国ドレクセル大学と東京の玉川大学の学生、36人を受け入れました。前回も土橋町からおまつりに参加し、社会人になっても参加したいとやってきた元学生たちの姿も。学生たちには一つ一つ手づくりされた土橋町の木札が配られました。

